

令和2年度（第2回）山鹿市総合教育会議 議事録

日 時	令和2年12月18日（金）9時30分
場 所	山鹿市役所（5階501会議室）
出席者	中嶋市長 堀田教育長 教育委員：栗川委員、野中委員、上田委員、野口委員 市職員：木下総務部長、瀬口教育部長、若杉教育部首席教育審議員、藤本教育総務課長、百田学校教育指導室長、新堀教育総務課審議員、田崎学校教育指導室審議員、園田社会教育課長、西村子ども課長、徳永教育総務課総務企画係長
傍聴者	なし

- 1 開 会
- 2 議 題
 - (1)第2次山鹿市教育大綱の検証について
 - (2)その他
- 3 閉 会

発言者	発 言 内 容
新堀教育総務課審議員	<p>令和2年度第2回山鹿市総合教育会議を開催します。</p> <p>開会に際しまして、議題と会議の公開の可否について確認します。</p> <p>本日の議題は、「第2次山鹿市教育大綱の検証について」となっております。</p> <p>この議題につきましては、非公開とすべき事由がないことから、本日の会議、及び議事録につきましては公開といたします。</p> <p>また、会議の時間は、市長の公務もございまして、午前10時30分には終了したいと思いますので、ご協力の程よろしく申し上げます。</p> <p>なお、本日の傍聴者の方はおられません。</p> <p>それでは議題に入ります。中嶋市長に会議の議長をお願いします。</p>
中嶋市長	<p>本日は、堀田教育長をはじめ、教育委員の皆さまにおかれましては、お忙しい中にご出席いただき誠にありがとうございます。また、日頃から市政の推進、教育行政の充実・発展に多大なるご尽力を賜り厚く御礼を申し上げます。</p> <p>さて、本日の会議は、ただ今案内がありましたように「第2次 山鹿市教育大綱の検証」となっております。4年間の取組の成果、また、次期教育大綱に向けた課題など有意義な意見交換ができればと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>それでは、事務局より説明をお願いします。</p>
藤本教育総務課長	<p>第2次山鹿市教育大綱につきましては、平成29年度から令和2年度までの4年間を計画期間とし、3つの基本方針を柱として方針ごとに設定した施策の事業を推進してまいりました。去る7月の第1回総合教育会議では、令和元年度の実施状況を報告したところです。</p>

	<p>今回の会議では、次年度からの新たな大綱策定に向けて、これまでの4年間を検証するため、「主な取組と成果」「問題点と課題」「今後の方向性」として整理しました。各課より概略を説明しますので、基本方針ごとに意見交換をお願いします。初めに、基本方針1について、学校教育指導室と子ども課より説明します。</p>
<p>百田学校教育指導室長</p>	<p>学校教育指導室です。基本方針1「命を輝かせる教育」について説明します。</p> <p>「①自他の命を大切にせる教育の推進」では、学校復帰を目指す不登校児童生徒のための適応指導教室を設置し、1人1人の状況に応じて適切な指導助言を行ったり、関係機関との連携や家庭への巡回訪問を行ったりすることで、家庭から外に出られなかった子どもたち、集団で学ぶことが苦手な子どもたちの社会的自立へとつながっております。また、外部専門家による適切な支援や、サポートティーチャーによる丁寧な関わりにより不登校の未然防止に努めたことで、令和元年度の本市の不登校出現率は0.21%と県下では非常に低い状況を維持しております。</p> <p>課題としましては、支援を要する児童生徒数が増加傾向にあり、支援体制の継続と更なる充実が必要です。また、不登校の出現率は県下でも低い状況にありますが、病気や経済的理由による欠席者が年々増加傾向にあることが課題です。</p> <p>今後の方向性としては、学校の校務改革を更に推進することで、教師が児童生徒にかかわる時間を確保するとともに、不登校対策委員会に外部専門家も参加して適切な支援を行っていきたいと考えております。</p> <p>「②豊かな心と社会性を育む教育の推進」では、道徳教育の充実に向けて学校訪問や校内研修で指導助言を行いました。また、昨年度、菊鹿小中学校で熊本県道徳教育研究大会が開催され、特別の教科「道徳」の提案授業が行われました。他の学校においても校内研修などを実施し、学校総体としての道徳教育への取組が進んでいます。</p> <p>課題としましては、SNS等のネット上の誹謗中傷について、家庭や地域への啓発が更に必要になっています。昨年度、「いじめは絶対に許さない」という学校の風土が十分できていないところがありました。また、学校でのあいさつにつきましては、どの学校もよくできていますが地域でのあいさつが十分できていないところがあります。</p> <p>今後の方向性では、道徳の教科化に伴った授業の改善ということで、今まで以上に多面的・多角的に考える授業への改善ということを指導助言していきたいと思いますし、各学校でのいじめ防止基本方針の見直しについて、しっかり指導助言を行っていきたいと思います。さらには、「いつでも どこでも 誰にでも」心伝わるあいさつの励行を実現するために、地域からのあいさつの評価を取り入れるよう、各学校に指導助言を行ってまいります。</p> <p>「③インクルーシブ教育の推進」では、合理的配慮コーディネーターが各園・学校を巡回し、具体的な指導助言を行い、教職員の資質向上や支援体制の構築を図りました。さらに、保護者への支援も併せて行いました。また、特別支援教育コーディネーター研修や中学校区ごとのコーディネーター会議を行い、合理的配慮の提供やユニバーサルデザインの視点に基づいた授業についての理解を深めております。</p> <p>課題としましては、各学校の特別支援教育コーディネーターの育成が課題になっております。また、ユニバーサルデザインの視点からの授業づくりや合理的配慮の提供が徹底できていない学校もみられています。</p>

	<p>今後の方向性では、特に特別支援学校の子どもたちの指導について、専門性を更に高めるような研修や巡回相談をしっかりと行っていきたいと考えております。</p>
西村子ども課長	<p>子ども課です。インクルーシブ保育について説明いたします。</p> <p>インクルーシブ保育の推進につきましては、平成25年度から山鹿保育園をモデル園と位置づけ、保育士のスキルアップを図ってまいりました。また、平成29年度からは、他の公立園からもコーディネーターを選出していただき、毎月の研修会などで全体の底上げを図ってきました。さらに2年前からは、私立保育園を巻き込んだ研修を重ね、コーディネーターの育成を図っております。</p> <p>課題としましては、園ごとの取組内容にばらつきがありますので、均一なインクルーシブ保育が山鹿市の全ての保育園等に広がるよう、コーディネーターの育成に努めていかなければならないと思っております。</p> <p>今後の方向性としましては、継続してコーディネーター会議を定期的に行い、均一なインクルーシブ保育が山鹿市管内すべての保育園等に広がるよう、保育士の育成に努めていきたいと思っております。以上です。</p>
中嶋市長	<p>ただいま「基本方針1」について説明がありましたが、皆様のご意見を申し上げます。</p>
野口委員	<p>「①自他の命を大切に教育の推進」については、現場の皆様方が一生懸命に取り組まれていることで、不登校出現率も非常に低くなっておりますので皆様方のご努力には感謝したいと思います。ただ、教育長がいつもおっしゃるように、あくまでも不登校ゼロが目標ということですので、それに向かって今後何をしていかなければならないか。今の形は、人もつぎ込んで組織的にも出来上がっていますので、これは継続しなければなりません。ここで止めてしまうと、せっかく積み上げてきたものがなくなりますので、まずはこの体制を継続していくという話をしておかなければならないと思います。</p> <p>また、教師が児童生徒にかかわる時間を確保するために校務改革など色々やっておられますが、ここはもっと踏み込まなければならないのではと思います。十分かと言いますと、現場を見ているとそういう感じはしませんので、教育委員会として、まず必要なものは何かということを探りしていかなければならないのかなと思います。</p> <p>いつか教育長がおっしゃいましたが、適応指導教室のオアシスクラブに行っている子どもたちがいて、その後、学校に行っても自分たちの教室には入れないので、保健室や学校によっては別の教室で過ごしたりしています。その辺の体制整備などでもっとやれるところはないのか。そういう話が方向性の中で出てくるといいのかなと思います。</p>
百田学校教育指導室長	<p>教室に入ることができない子どもたちにつきましては、山鹿と鹿本だけであった適応指導教室を昨年度から鹿北にも設けて、なかなか教室に足を運ぶことができない子どもたちへの支援等を充実させるように人員を配置しまして対応をしているところです。現在は3か所の適応指導教室を設けていますので、そこを拠点として、しっかり対応していくということを推進してまいります。</p> <p>また、校務改革につきましては、学校現場には早く帰りなさいと言っても仕事量が減らないと無理がありますので、一昨年からスズキ校務支援ソフトを導入して、</p>

	<p>子どもたちの出席や成績、通知表にかかわる事務をデジタル化いたしました。また、来年度からは、教師の勤務に関する校務支援のソフトを導入し、ICT支援員を活用しながら仕事時間の効率化を図り、子どもたちとかかわる時間を増やしていきたいと考えております。</p>
堀田教育長	<p>野口委員から「継続した取組をしなければならない」と言われましたが、私もそう思います。少しでも油断したら元に戻りますので、継続して取組んでまいります。</p> <p>山鹿市の教育の目玉は、学校改革・校務改革です。学校現場には学校行事・研修・会議の在り方について一から見直して、子どもたちとかかわる時間を見つけ出すように言っていますが、まだできていない部分もありますので徹底させていきたいと思ひます。</p>
栗川委員	<p>前回の会議でも申しましたが、適応指導教室が非常に効果を上げていると思ひます。適応指導教室は、普通の授業をするところではありませんし、いかに魅力を持たせて、子どもたちを出てこらせるかということが重要だと思ひます。</p> <p>まずは、そこに出てきて先生たちとコミュニティをきっちり取って、それから学校に戻すということが一番必要ですが、もし学校に戻らなくても、市内の福祉施設などは色々な取組をされていますので、そういう所とも連携をして取組を行っていただきたいと要望いたします。</p>
百田学校教育指導室長	<p>関係機関との連携につきましては、今後もしっかり取りながら進めてまいります。適応指導教室の利用で元気になっている子どもたちも沢山いますので、ご示唆をいただきながら、一人一人に更に対応できるように取組んでまいりたいと思ひます。ありがとうございます。</p>
中嶋市長	<p>他にありませんか。</p>
野中委員	<p>私が気になったのは、課題の中で述べられている「家庭環境の悪化を要因とする支援の長期化」という部分です。根本的な解決の道がなければ教育部だけで対応することではありませぬので、今後の方向性の中に、教育部だけでできない部分を他にどう働きかけていくのか。どういうふうにつないでいくのかということが出てこなければいけないのではないのかと思ひたところだす。</p> <p>と言ひますのは、ここだけではなくて他の施策もそうですが、ここだけで子どもの育成というものが完結するわけではありませぬので、市全体の運営を教育部としてリーダーシップをとっていけるかどうかだと思ひます。</p> <p>この家庭環境の悪化の長期化は、長くなれば長くなるほど人材もお金も入れなければならぬわけで、それを延々と続けるのではなくて、そこをどうにかするための手立てをどう打っていくかということを考えたいと思ひたところだす。</p>
田崎学校教育指導室審議員	<p>野中委員が言われたとおりだと思ひます。私も今年度山鹿市に来まして沢山の外部専門家の会議に出席しましたが、経済的な問題・家庭的な問題を抱えた子どもさんが沢山のいます。</p> <p>教育長はいつも「不登校ゼロを目指している」とおっしゃいますので、それを目指すためにも、市長部局の福祉援護課との連携が非常に必要だと思ひました。年3回の会議があつていますが、その中でただ情報を共有するだけではなくて、しっかり各部署で役割を分担して進めていかなければ、この問題は解決しないと思ひています。来年度は頑張りたいと思ひますのでよろしくお願ひします。</p>

中嶋市長	<p>この問題につきましては、堀田教育長が機会あるごとに「家庭問題等々に原因がある子どもたちが沢山いるので色々な形で解決しなければならない」と言っておられますし、今のような連携をしながら全体として取組んでいくことが必要だと思っています。</p> <p>他にありませんか。</p>
上田委員	<p>不登校については、家庭環境の悪化を要因とする子どもたちが増えてきているということですが、これまではスクールソーシャルワーカー（SSW）等の動きや会議によって、各課との連携もできていたのではないかと思います、それが対応できないくらいに状況が悪化して、そういう子どもたちが増えてきているということでしょうか。</p>
田崎学校教育指導室審議員	<p>SSWは市雇が3名と県から2名の計5名で各学校を分担し役割を持ちながら活動していますが、学校からのSSWの申請が非常に増えてきている状況です。</p> <p>その中で私が感じていますのは、小学校の時期に家庭と子どもさんとがしっかり関係を築いていくことが大事ではないかと思ひまして、年度途中から、市のSSWを小学校に専属で配置をしています。また、配置の仕方につきましても、今年度の反省をしながら来年度に向けて検討しているところです。</p> <p>今おっしゃったように、今後もSSWの活躍は非常に大切になってくると思ひます。現在、県のカウンセラーと県から拠点校への配置をしていただいているカウンセラーもおりますが、今後、SSWの数も増やしていかなければ対応できなくなると私は感じています。</p>
上田委員	<p>子どもたちの不登校やいじめの対応については、教師が子どもたちにかかわる時間をいかに確保するかということが一番大事なところだと思います。そのために、それぞれの学校は校務改革をやっておられて確かに進んできております。</p> <p>ただ、学校の現状を見ますと、とにかく先生方も子どもたちも学校に来てから帰るまで一日中忙しく、お互いに余裕がない状況が続いています。校務改革は進んでいるものの、教師が子どもたちにかかわる時間がなかなか取れないし、子どもたちも自分のつらい思いとか心配・悩みを先生に相談するという時間の余裕がないことが現状だと思います。</p> <p>校務改革はずいぶん進んでいるものの、もっと学校の中の一日の流れという中で、もう少し何かを削減したり何か工夫ができないと、子どもたちが先生に相談したり、教師が子どもの変化に気づいて話しかけるということができない状況なので、そこをどうにかしないとなかなか解決は難しいかなということを感じています。</p>
堀田教育長	<p>おっしゃるとおりで、学校訪問に行くとおわりだと思います。校務改革はずいぶん進みはしましたが、まだまだ思い切って時間を生み出せるようなことはありますので、それは積極的に市教委から働きかけていきたいと思ひます。</p> <p>社会の大きな問題になっているいじめ等は理屈じゃありませんので、校長を含めて教職員にも言っているのは、「何があろうが、いじめは絶対に許さないというスタンスは取っておいてください。」ということなのです。</p> <p>文科省から出た最初の通知文には、いじめをする子どもは転校させてもいいという通知文が流れたのですが、次々に通知文が流れてくるから学校はどれが本物かわ</p>

	<p>からないというようなことがありましたので、最初の通知文が一番基になっているからということで校長会では言っています。</p> <p>「いじめは絶対に許さない」ということは、年度当初に保護者にも伝えていますが、もう一度徹底したいと思います。それくらいの意識がないと、いじめられたほうが転校するなんてあり得ませんので、山鹿市ではそういうスタンスだけは作らないという思いは持っています。</p>
上田委員	<p>教育長はずっとそういうことをおっしゃってきています。学校にもしっかり言っておられるのに、資料を見ると「いじめは絶対に許さないという学校の風土が十分にできていないところがある」というところがどういうことなのかと思います。</p> <p>ずいぶん前から「いじめは許さないということをしっかり言いなさい」と学校に言っているのに、こういう学校が出てきているということは何だろうかと思って見ていました。</p>
百田学校教育指導室長	<p>これは一部の学校のことで、昨年度、ある中学校の生徒が困りごとがあるということで担任に相談しています。本来はすぐに対応するところですが、学校での対応が数日間かかって、なかなか解決できないということが何日間か続いたものですから、県の相談室に電話をされています。</p> <p>まだこういうものが一つでもあるということは、十分に徹底できていなかったということで私どもも反省したところです。その後、改善していきましたが、昨年1例あったということで記載いたしました。</p>
上田委員	それは担任の先生が対応できずに長引いたということですね。
百田学校教育指導室長	はい。そうです。
上田委員	中学校の対応というのは、小学校のように担任個人で対応するのではなくてチームで対応するというのが大体そうなんです、個人で何もしなかったということですか。
百田学校教育指導室長	担任と学年主任まででの対応だったのですが、それが数日かかったのもとても遅かったということです。もっと素早い対応をするべきだったと指導助言をしております。
上田委員	わかりました。
野口委員	<p>今のいじめの対応については、一部そういうものがあつたのかもしれませんが、色んな形で指導をされて学校の取組としては随分進んできていると思います。</p> <p>ただ、「いじめは絶対だめだ」と先生たちが言って取組んでいますが、どうもそれが家庭や地域に入ってくると妙な話になってきます。例えば、親が悪いという言い方をする親がいます。</p> <p>ですから、地域とか家庭とかというところまでアプローチができるような形を方向性の中に是非入れてもらいたいと思います。今年は特にコロナで色々あつたように、確かに現実として起こった時にしっかり家庭でフォローができる。あるいは地域でフォローができるという形をとっていかないと、いくら学校だけ頑張っても難しいのではないかと思いますので、是非、総合教育会議ですから市全体として一緒になってやれることを方向性の中に入れていただきたいと思います。</p>
中嶋市長	他にご意見はありませんか。

野中委員	<p>いじめや不登校の対応については、現場の先生方が意識高く取組んでくださっているから現状のこの数字があるわけですので、先生方に非常にお礼を言いたい気持ちでいます。そして、その意識づけをしたのは誰かといいますと、教育委員会の努力だろうと思います。人間の意識は行動に結びついてきますので、そういう良い循環ができると何でもうまく進んで行くと思います。</p> <p>また、③インクルーシブ教育の推進について、課題に「園ごとの取組内容にばらつきがある」とありますが、これは先生の意識からきている問題なのか、それとも物的なものなのか、具体的にわかるなら教えてください。</p>
西村子ども課長	<p>コーディネーター会議を月1回程度開催していますが、私立保育園では保育士不足で会議に出席できない場合もありますので、取組内容にばらつきがあるという表現をしています。</p>
野中委員	<p>その改善の方向性はどのように考えたらいいでしょうか。</p>
西村子ども課長	<p>できるだけ参加しやすいように、会議の時間帯を変えるなどしてインクルーシブ保育の充実を図っていきたいと考えています。</p>
野中委員	<p>そうしますと、保育士の研修会への参加のばらつきであって、インクルーシブ保育自体の取組のばらつきではないということでしょうか。</p>
西村子ども課長	<p>はい。</p>
野中委員	<p>わかりました。</p>
中嶋市長	<p>大変貴重で有意義なご意見をいただきありがとうございます。私も「命を輝かせる教育」につきましても、大きな柱であるという思いを強くいたしております。</p> <p>特に不登校等につきましても、県下でも非常に低い出現率でありまして、現場の先生方や教育委員会などすべての関係者が懸命な取組を継続していただいているおかげであると、大変な感謝の思いを持っております。</p> <p>継続は力なりと言いますが、一番大事なところでもありますので、是非とも継続的な取組をお願いしたいと思いますし、学校も地域も家庭も思いを一つにして意識を共有することが更なる充実につながっていくと思っています。</p> <p>続いて、基本方針2「志を育てる教育」について説明をお願いします。</p>
園田社会教育課長	<p>「①山鹿学の推進」については、生涯学習講座をほぼ予定通りに開講し、多くの市民の皆さんに受講いただきました。本年度も予定通り開講しましたが、新型コロナの影響を受け延期等の措置を取りながら開講しております。ただ、受講生の固定化もみられることから新規受講生の発掘に努めなければならないと考えております。博物館の展示事業では、自然系・民族系の分野で企画展を実施し多くの来場者を得ております。博物館については、今後の大きな課題として取組んでいきたいと思っております。幼児向けの「紙芝居」「パネルシアター」については、各施設で利用を始めていましたが、新型コロナの影響で現在休止している状況です。</p> <p>「②読書のまち山鹿の実現」については、読書活動推進員と連携して、調べ学習の資料やYAの資料・参考書等の資料充実に努め来館者の増加を見ているところです。また、小学1年生クラスへ新刊40冊を貸し出す「ブックボックス事業」・英語教育の導入による英語の絵本貸出事業「ファーストイングリッシュ」についても順調に展開しているところです。図書館利用・貸出状況についても増加しており、</p>

	<p>年度当初蔵書数は 213,820 冊で、貸出個人団体合わせて 332,885 冊になっています。また、移動図書についても貸出は増加していますが、個人の利用が減少傾向にあることから、今後はステーションの見直しなどが必要であると考えています。</p> <p>「③国際交流事業」については、クーマとの交流を中心に進めてまいりましたが、本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止やオーストラリアの森林火災の影響を受けて、やむなく訪問中止にしております。次年度は受入の年となりますが、状況次第では中止もあると考えております。国際交流につきましては、財源の問題等もありますが、その在り方について論議する余地があると思われます。</p> <p>余談ですが、平成 22 年から 26 年訪豪の派遣団 49 名にアンケートを取っております。その後の進路やその意義について回答を得ておりますので、現在取りまとめを行っているところです。以上です。</p>
中嶋市長	<p>それでは、皆様のご意見をお願いします。</p>
野口委員	<p>山鹿学の推進については、この教育大綱で山鹿らしさという形で山鹿学という言葉をやむを得ず使って取り組んでいますが、中身については山鹿学がなかなか浸透していないのではないかと思います。</p> <p>例えば、生涯学習講座や生涯大学などの参加者というのは、本当に数も少ないし固定化されていますので、その人たちだけを対象にしているのだからかということだと思います。講座の中身がもっと広く市民の皆様方の目に触れる、あるいは映像で見られるという形で、もっと知ってもらえるような工夫がなければいけないのではないかなと思います。</p> <p>それともう一つは、「山鹿・郷土かるた」を子どもたちに募集をかけてされていますが、それが作って終わりではなくて、子どもたちがその中身をわかって、それが家庭での話題になるような仕掛けをしていかないといけないと思います。私も山鹿全体のことはわかりませんが、市民の皆様も全部知っているという人は少ないと思いますし、こんなことがあったんだという驚きのほうが多いと思いますので、是非、市民の皆様方全体に色んな形で山鹿のことがわかるような仕掛けをしていかなければならないというふうに思います。</p> <p>ですから、市立博物館も企画展とか工夫されていますが、テーマをシリーズ化してやるとか、山鹿学をしつこくやってもらいたいと思います。今まで通りのやり方では広がりがないのではないかと危惧しています。</p>
園田社会教育課長	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>歴史探訪コースでは、7つのテーマを開講し3年ほど続けてきて、ある程度の資料がたまっております。それを一つの媒体として作り、皆さん方の目に留まるようにしたいということで、今、講座を組むような状況を作っておりますが、もう少し時間をいただきたいというのが本音でございます。</p> <p>郷土かるたにつきましては、子どもたちに571首だしていただいておりますので、その使い方についても今後の検討としております。</p> <p>博物館のテーマについてシリーズ化してはどうかということですので、昨年「大代寅次郎展」を開催し非常に好評でございましたので、次回の企画展では大代寅次郎の水彩画をモチーフとした「山鹿の今昔」ということを計画しております。そういうことをやりながら進めていければと思っているところでございます。</p>

野中委員	<p>山鹿学は詰まるところ「山鹿愛の形成」です。山鹿愛のために様々な手を打って努めてくださっているのですが、山鹿が大好きな子どもたちが、ここ数年の間にどれだけ増えているのかというデータを取りそこなったと思っています。今からでも遅くはないと思いますが、そういう山鹿学のためのアンケートをやっていく中で、気付いたら山鹿学というものが身近にあったなあと感じはしないかと思っています。</p> <p>やはり「山鹿愛」「山鹿ふるさとプライド」です。そういうものを作ってやるために山鹿学が導入されましたので、将来大人になる子どもたちが、今、継続してやっている取組に参加していくような子どもにしていかなければなりません。今の子どもたちがどの時点にあるのか、学校関係は割合調査がやりやすいと思いますので、少なくとも学齢期くらいの子どものための調査は将来的にもやっておいたほうがいいのかと思ったところでした。</p>
堀田教育長	<p>山鹿もてなし隊の山本さんたちが、ずいぶん前から取組まれています、そのあたりとも連携をしてノウハウをいただき、目に見える形で表に出せるようにしたいと思っています。</p>
中嶋市長	<p>他にありませんか。</p>
上田委員	<p>外国語の授業については、山鹿市は英語力が課題であるとずっと聞いていますが、教育委員会が小学校5・6年の担任の先生や中学校の先生を指導されて、それが非常に役立っているという話も聞いております。</p> <p>そこで、今後の方向性のところに「小中の接続を意識した授業を展開していく」とありますが、今の段階でどのように考えておられるのかお尋ねいたします。</p>
堀田教育長	<p>本年、教育委員会に学校教育支援員として栗原先生を採用した意味をわかっていただきたいと思います。栗原先生には指導者の指導をしていただいておりますし、学校教育指導室には英語の田崎先生もおられます。このあたりは意識として英語力を高めなければならないと思っているつもりで、常に教育委員会の中に英語の指導者は継続して入れていきたいと思っています。</p> <p>そういう本当に指導力のある人たちを見つけていくことは私の責任ですので、教師に限らず民間にもおられるかもしれませんが、今後もそういうことを考えていきたいと思っています。</p>
田崎学校教育指導室審議員	<p>山鹿市には小学校の英語専科が3名入っていますので、県内でも一番充実していると思っています。教育長もおっしゃいましたが、栗原先生には英語専科の授業を中心に回っていただいております。</p> <p>一方で、小学校5・6年生以外の担任をされている先生方が、自分が違う市町村に転出された場合のことも意識されて、自分の英語力を高めたいということで、月に2回ですが教育委員会の勉強会にも来られています。</p> <p>このように、小学校の先生方ひとり一人が英語力の向上に向けて意識が高まっていますし、英語専科も3名入ったということで、ますます意識が高まっていくものと思っています。</p>
野中委員	<p>英語教育につきましては、今は非常に手厚くなっていますので、4、5年後に結果が出てくるのかもしれませんが、技術的なものだけでは解決しないような気がしています。</p> <p>例えば、インクルーシブ教育などもモデル校を作ってやったように、英語教育に</p>

	<p>についても山鹿市研究指定校のような感じで市教委が指定をして、そこに力を入れていけば突破口にならないかということをおもいました。ただ、従来のようなあちらこちらにも研究指定校というやり方ではなくて、英語教育はこうやるんだよみたいな山鹿スタイルの指定校を作って、そこを突破口にして市全体に広げていけたらと思ったところです。</p>
堀田教育長	<p>今おっしゃるようなことは教育委員会でもよく話をしています。例えば、旧態依然の指定で研究発表会等を長くやっているところの見直しや、道徳が教科になりましたが、教育委員会として道徳の教科指定をやるとういうようなことも仕掛けています。野中委員が言われたことは参考にさせていただきたいと思います。</p> <p>ただ、英語も山鹿市として指定をしていいとは思いますが、指定した時に困るのは指導者のことです。今、県と連携して人事を行っており、学校からも英語の要望が上がってきていますが、英語教師を入れればいいという問題ではなく、優秀な指導者をいかに確保するかということに全力投球しないと、指定してもなかなか浸透しないということもありますので、そのあたりは今後考えていきたいと思っています。</p>
野口委員	<p>鹿北は特にですが、山鹿地域以外は小中一貫という考え方の中でつながっていますので、その流れの中で何かできること、あるいは何かしていることなどはないのですか。</p>
堀田教育長	<p>「日本一の学園都市やまが」という言葉は、山鹿中学校の取組を参考にして作ったものです。例えば、山鹿中学校区の小学5年生から中学2年生までについては、連携していくつかの教科で同じ内容の問題を作って試験を実施しました。</p> <p>確かに鹿北小中学校は独自で取組んでいますが、山鹿市は英語が課題となっていますので、教育委員会としても考えていかなければならないと思っています。</p>
中嶋市長	<p>他にご意見はありませんか。</p>
栗川委員	<p>山鹿学に関連しますが、市外から山鹿に来られた方は「山鹿は素晴らしい」とおっしゃいます。ただし、地元に住んでいる方はわからないというようなことですが、例えば、何で山鹿に装飾古墳が残っているのかといいますと大きな災害がなかったからです。そのことでも山鹿市は災害に強いということが証明されています。</p> <p>また、「読書のまち山鹿」ともいいますが、山鹿市は色んな偉人が輩出されていて、蒲島知事は読書をされて知事になられ、清浦奎吾さんも読書のおかげで総理大臣になられたのだと思います。そのように歴史が証明していますし、核として人口を増やすためには何をすればいいのかということを考えてほしいと思います。</p> <p>ですから、教育をセールスポイントとし、地域のすばらしさをセールスポイントとし、偉人が何で出たかということもセールスポイントとして、山鹿の人口を増やすということを考えてほしいと思うわけです。人口が増えると税収が増えて、学校も安定して増えていきますので、他課と連携して山鹿市全体で山鹿のいいところを売って行って、山鹿に住んでほしいというようにもっていったほうが一番いいのではないかと思います。</p>
中嶋市長	<p>私も山鹿学の基本になるのは、自分たちのふるさと山鹿を愛する気持ちや誇りに思う気持ちだと思います。そういったものが一番基盤になりますし、山鹿はそういった歴史的なものも含めて特に素晴らしい人材を持っていると思っています。</p>

	<p>一つの例ですが、清浦顕彰会の時に、松山会長が中満泉さんの話をされました。清浦奎吾さんの妹の玄孫にあられる方で、現在、国連事務次長として活躍されています。広島・長崎の平和記念式典ではグテーレス国連事務総長のメッセージを代読されました。そのような山鹿とつながった方も身近にいらっしゃいますので、山鹿にはチャンスが沢山あると思います。</p> <p>子どもたちや市民の方たちが故郷を愛して誇りに思い、そしてそのことを発信し体現していくということが、山鹿を活性化し人を呼び込む大きな力になるといつも思っております。</p>
堀田教育長	<p>一つだけ紹介させてください。</p> <p>国際交流の今後の方向性に、「クーマとの国際交流は将来的に民間主体の交流を推進していく」と書いている理由ですが、行政も支援をしています。費用が毎年一人20万円必要となります。学ぶ意欲があっても家庭的に厳しい子どもたちが沢山いますので、ライオンズクラブに支援いただいて連れて行ってくださいとお願いをしています。2、3年前からお願いしていますが、もっともっと民間に力を貸してくださいという意味で記載しているところです。以上です。</p>
中嶋市長	<p>困難な家庭環境の子どもたちを、行政だけではなく民間も支援していくことはとても素晴らしいことでありがたいことだと思います。</p> <p>それでは、基本方針3「生き抜く力を育む教育」について説明をお願いします。</p>
百田学校教育指導室長	<p>基本方針3「生き抜く力を育む教育」について説明します。</p> <p>「①確かな学力と健やかな体の育成」では、「めあて」や「まとめ」の時間を大切にしながら日常的授業改革とユニバーサルデザインの視点に基づいた授業づくりを学校全体で組織的に実践できるよう、学校訪問や校内研修、巡回相談等を通じて指導・助言を行いました。県学力調査において、小学校では全ての学年・教科で県平均を上回るなど高い学力水準を維持しております。また、全ての中学校において、教員OBや地域住民の協力のもと、放課後等の時間を活用し事業を実施したことにより、参加した生徒の93.1%から「勉強がわかるようになった」との回答を得ており、学習意欲や基礎学力の定着につながっております。</p> <p>課題については、知識・技能の応用や他者と協働しながら解決していくこと。また、放課後の地域指導員の継続的な確保が課題です。</p> <p>今後の方向性としては、コミュニティ・スクールや地域学校協働本部を更に推進することで、人材を確保していくことが大切です。また、タブレットの導入に伴い、ICTサポーターによる研修を計画的に実施し、授業におけるICT活用を推進することにより、さらなる学力向上を目指していきます。</p> <p>「②ESDの推進」では、菊鹿中学校で、地域や家庭との連携を図った様々な体験学習やボランティア活動等をESDの視点で見直し、生徒に育みたい力を明確にした教育活動を行いました。</p> <p>課題としては、基本施策を「SDGs（持続可能な開発目標）の実践」に改め、具体性に取組むことが今後必要です。</p> <p>今後の方向性として、来年度は中学校で新しい教育課程になり教科書も変わりますが、理科や家庭科などの様々な教科でSDGsが取り上げられ、その中で学習していきます。また、子どもたちの生活とのつながりで取組むことができるよう指導・</p>

	<p>助言を行ったり、あるいは先進研究校等の好事例を広げていくような取組をしていくことが大切です。</p> <p>「③凡事徹底」では、学校訪問等により、児童生徒の基本的な生活習慣や学習習慣の定着などについて助言を行ってきました。また、「市長あいさつ運動」で全小中学校を訪問し、児童会・生徒会とともに明るいあいさつを呼びかけてきました。</p> <p>課題として、学校を離れた場所でも、地域の方へあいさつができる子どもが育ってきてはいますが、十分ではないところがあります。</p> <p>今後の方向性として、学校訪問等を通して、児童生徒の育成に向けた指導助言を行うとともに、幼・保等、小、中連携協議会活動の充実を図り、生活習慣や学習習慣の素地となる、育ちの円滑な接続と充実が図られるよう助言をまいります。以上です。</p>
中嶋市長	ただ今の件につきまして、ご意見をお願いします。
野口委員	<p>①の「確かな学力」については、記載のとおりしっかり取組んでいただきたいと思えます。</p> <p>ただ、「健やかな体の育成」についての記載がありません。勉強は大事ですが、体づくりのほうが少し心配ですので、方向性の中に盛り込めないのかなという気がしました。</p>
百田学校教育指導室長	取組としての記載がないということで不十分だったと思えます。申し訳ありません。
中嶋市長	他にありませんか。
上田委員	<p>学力については、子どもたちは勉強がわかりたいと思うことが切実な願いだと思いますし、教員のほうは子どもにわかるように教えたいというのが一番の願いだと思います。そうした場合に、先程の不登校・いじめでも言いましたが、先生方が子どもたちにわかる授業をするための時間の確保、まずは自分で学ぶというところの時間の確保、これがやはり必要ではないか思います。あまりにも忙しい毎日の時間帯の中で、子どもたちにわかるように教えたいけれども、なかなかその時間が確保できないというきつさがあるのではないかと思います。</p> <p>そのあたりも含めて、学校の中の校務改革をしっかり意識してやっていただかないと、勉強がわからないから学校にも行きたくないという子どももいるかもしれません。または、友達との仲たがいというところから発生する場合がありますので、子どもの願い・教師の願いを叶えるために、学校の一日の流れというものを本当に検討していただきたいと思っています。</p>
堀田教育長	<p>「健やかな体の育成」に関する記載がないということですが、そこは絶対入れなければいけませんので、私の確認不足で申し訳ないと思っています。</p> <p>また、上田委員おっしゃるように、学力に関しては教師の指導力次第になってきていますので、今、学校で取組ませているのは、少し指導力が足りない教師が来た時に学校全体としていかに学力を上げるかという取組、習熟度同一授業といいますが、それには時間の確保が必要です。また、少人数学級については、加配をもらっていないけれども、あえて少人数学級をするような取組を学校に働きかけているところです。きれいごとではなくて、成果を出すには取組しかありませんので、今後徹底してまいります。</p>

	<p>また、学力に関しては、熊本市や熊本市近郊は塾通いをしている子どもが多くて親も塾に頼っています。山鹿の地は塾も少ないので教育環境的にはまだまだ田舎ですが、そういう子どもたちには学校で力をつけてやらなければいけません。そこは今後全力投球しなければならないと思っています。</p>
中嶋市長	他にありませんか。
栗川委員	<p>「生き抜く力」ということで、先日、市長と一緒に九州中学校駅伝大会の応援に行きましたが、鹿本中学校の男子が九州で4位になりました。市長が以前にPTA会長をされていた時には学校が崩壊していた時代で、その頃は郡市の駅伝大会に出るとビリから2番目のチームから5分遅れで最後にゴールするという、やる気のなさの塊でした。それからすると、九州大会で4位になりましたので、すごく涙を流されながら観戦されていました。その頃から先生やPTAや地域の人たちが本気がかかわって行って、あいさつ運動が始まり今があるのだと思います。</p> <p>その頃の子どもたちが今何をしているかという、大きな会社の社長や国際ボランティア等をして、みんな立派になって成功しています。</p> <p>「生き抜く力」とは何かというと、世の中に出たら信用がなければ絶対ダメなんです。信用を回復するために何をどうしていくかということが必要になってきます。失敗や挫折を繰り返しながらも成功した理由は何かと言いますと、家庭教育に根本があったからだと思います。先程も家庭が崩壊していると言われていますが、それなら、その変わった教育をどこで正さなければならないのかというと、幼・保育園での幼児教育や小学校の低学年だと思います。そこで、道徳教育に力を入れて良し悪しを教えるということをやっつけていかなければならないと思っています。</p>
堀田教育長	<p>③凡事徹底の「早ね あいさつ 朝ごはん」については反省をされていて、学校ではどこまで徹底させているのかなと申し訳なく思っています。</p> <p>確かな学力のことが出ましたが、秋田県が毎年全国学力ナンバーワンです。秋田県の子どもたちの睡眠時間は日本で一番長いのですが、そういう習慣になっていて、とにかくどんな家庭でも何時に寝なければいけないと決まっているそうです。その子どもたちが学力日本一をずっと続けています。私たちは学力のことを言っていますが、「早ね あいさつ 朝ごはん」はすべてに関連していて学力にもつながってきますので、点ではなくてすべて線で結んでいかないと成果は上がらないと、秋田県の取組で思ったところでした。何でも徹底させていきたいと思っています。</p>
中嶋市長	<p>上田委員が言われました、子どもにわかる授業・わからせる授業というのが先生たちの一番の思いで、その授業をするための前準備の時間が大事であると、お聞きしながら改めて思いました。</p> <p>また、「健やかな体の育成」では、保護者も言われていますが、子どもたちがスクールバスで登校するから体力が落ちているのではないかと心配をされています。学校では、そこを補うために日常的に走ったり体力をつけるような取組をされていますので、それはとても大事なことだと思います。</p> <p>栗川委員が言われました、鹿本中学校が4位に入賞したことは大変感動しました。レースではタスキを受けると全力でスタートし、次の選手に渡す時にも全力ですべてを出し切ってタスキをつないでいました。だから、県大会から30秒以上もタイムを縮めています。日頃から市職員にも「力を出し惜しみするな」と言ってい</p>

	<p>ますが、その全力を尽くす姿やチームワークが感動を呼んで涙を誘ったという思いがします。確かに学校が荒れたり子どもたちがやる気を失っているときは、駅伝のようなきついことには参加したくないと子どもたちは言っていました。今回のように、選手や関係者全員が高い気持ちを持って頑張るんだという学校の姿が今につながっていますし、そういった子どもたちが鹿本中学校だけではなく、現実に山鹿全体に育っていることが私は非常にありがたく思っております。</p> <p>今回で最後の総合教育会議になりましたが、第2次教育大綱では、私の思いを入れて教育委員の皆さんと色々なディスカッションをしながら、柱となった「1命を輝かせる」「2志を育てる」「3生き抜く力を育む」という基本的なことを作っていただきました。まだまだ課題はあると思いますが、教育委員会と学校現場が一体となって取組をしていただき、子どもたちが育っていることに大変な感謝と喜びを感じているところでございます。</p> <p>新たな首長の下では、方向性も変わってくるかと思いますが、子どもたちを育てるという基本的なことについては、今後とも教育委員の皆様方のご支援ご指導をよろしく申し上げます。</p> <p>続きまして、その他について事務局から申し上げます。</p>
藤本教育総務課長	<p>今後の予定を申し上げます。中嶋市長の任期が令和3年2月19日までとなり、2月20日には新市長が就任されます。</p> <p>事務局としましては、今回のご意見等も踏まえて、新たな市長の下で第3次教育大綱の策定に向けて協議をお願いしたいと思っておりますが、次回の日程等につきましては、新市長の就任後に、その動向を踏まえて検討していきたいと考えていますのでよろしく申し上げます。</p>
中嶋市長	次回の日程等につきましては、皆さんよろしいでしょうか。
教育長、委員一同	はい。
中嶋市長	本日は大変貴重なご意見をいただき誠にありがとうございました。 以上で議事を終わります。
新堀教育総務課審議員	<p>本日の会議の全日程は終了いたしました。</p> <p>これをもちまして、令和2年度第2回山鹿市総合教育会議を終了します。</p>